

令和2(2020)年度 事業報告書



令和3年5月22日

認定 NPO 法人 芦屋市国際交流協会

- 1、 新型コロナによる緊急事態宣言発令及びまん延防止等重点措置によって、計画していたイベントの多くが中止となり、開催できたものでも催行人数を減少して行った。センター運営については臨時休館及び閉館時間の短縮で利用料収入が大幅に減少した。

2、語学・俳句教室事業

1) 英語・英会話・スペイン語・英語絵本朗読・俳句教室

	講師名	曜日	場所
英語	五十嵐 かほる	水	ラ・モール芦屋 203室
	戸田 博子	木	
	稲鍵 亜早子	木	大原集会所
	御園生 寛子	金	
英語絵本朗読	中本 幹子	全12回	潮芦屋交流センター
英会話	John Dix	木	ラ・モール芦屋 203室
	Stephen Donald	木	
	Mathew Glen Boyd	金	
	John Dix	火	潮芦屋交流センター
	Stephen Donald	木	
		月	
		月	
	Mathew Glen Boyd	金	
スペイン語	Marco Vinicio	木	ラ・モール芦屋 203室
俳句教室	石川 多歌司	水/月1回	

2) 語学・俳句教室事業

令和2年度は新型コロナで4月、5月は全て休講とした。休講期間が2か月に及んだ事や感染を懸念する受講者が退会・休会する等で受講者数が減少したが、コロナが落ち着き始めた10月に英語2クラス、1月に俳句教室1クラスを新規開講して計17クラスとした。これにより受講者数は回復して約100名となった。

3、姉妹都市交流事業

1) 第56回姉妹都市学生親善使節交換事業

令和2年度は新型コロナの影響で学生親善使節交換事業は行わず、代わりにモンテベロ市とZoomによるオンライン交流を開催した。

モンテベロ市へ派遣する第56回学生親善使節の選考を取り進めていたが、新型コロナウイルスの問題が発生し、国や市の指導のもと活動を自粛せざるを得ず、今年度SAの派遣を見送ることとなった。

モンテベロ姉妹都市協会とお互いの友好関係の維持継続のため、今年のSAに代わる事業を協議した結果、Zoom Meetingを行った。7月12日（日）11:00（モンテベロ市時間 7月11日19:00）に総勢約60名（両市からそれぞれ30名）の参加のもと開催した。

まず、進行役のエマ・デルガード会長の挨拶から始まり、戸田敬二会長、伊藤市長、田中明副会長、そしてモンテベロからはメレンデス市長のスピーチと続き、その後双方のSAのOB/OGによるビデオ・メッセージや、芦屋側で事前に行ったアンケートに基づき作成した過

去の SA に関するクイズなどで盛り上がった。笑いあり涙あり飛び入り参加ありなど、あっという間に約 3 時間が経ち、最後に Zoom で集合記念写真を撮り、終了後も皆、名残惜しくなかなか退室できず、その直後の SNS での反響も大きく、多くの絶賛の言葉が後を絶たなかった。

2) 60 周年記念市民訪問団交流事業

令和 3 年度の 60 周年記念事業（春に芦屋市民訪問団のモンテベロ市訪問、秋にモンテベロ市民訪問団の来芦）は新型コロナにより中止と決定した。

4、外国人のための日本語教室事業

令和 2 年度は新型コロナにより 4 月～5 月を休講とし、延べ人数は北教室 163 人、潮芦屋交流センター 550 人であった。飛沫感染を防ぐ為にアクリル板を設置する等の対策を講じて対面授業を行うと同時にオンライン授業を一部スタートした。今後を見据えて、ACA だけでなく芦屋市内の日本語講師を対象に「Zoom レッスン講習会」を開き、24 名の参加があった。

講師の能力を向上させるため日本語ボランティア講師ブラッシュアップ勉強会を 2 回（2/19、3/19）行い延べ 26 名が参加した。

また、一昨年から始めた「やさしい日本語講座」を継続して実施（11/13）し 24 名が参加した。

こども教室の生徒数は 6 名前後で延べ学習者数は 117 人であった。

1) 日本語教室

クラス名	曜日	場所
日本語教室（大人対象）	火	ラ・モール芦屋 203 室
	金	
	月（AM/PM）	潮芦屋交流センター
	火	
	木	
	土	
こどものための日本語教室	土	

2) 文化教室

令和 2 年度は新型コロナにより開催が不定期となった中、華道教室は 10 回、書道教室 6 回、茶道教室 3 回の開催となった。

5、神戸大学海事科学研究科への日本語講座への出張講義

令和 2 年度の前期は新型コロナにより中止となった。後期は 8 日間（2 コマ×8 日）計 16 コマ分の日本語ブラッシュアップ講座実施。大変好評の日本語レベルの差やニーズに応じたマンツーマン授業を実施した。

6、世界の料理教室シリーズ

令和2年度は新型コロナにより8月まで開催を見送った。対策を万全に整え9月から開催するも、催行人数を半分の14名にする等の制限のもと、可能な限り同じ料理を2回開催することで参加希望者の要望に答えた。エジプト、タイ、フランス、日本、イラン、コスタリカの6か国、計10回開催して好評を博した。

7、各種イベント事業の実施

1) さくらまつりでのバザー開催

このイベントの売り上げは、協会の貴重な活動の資金として位置づけられているが、令和2年度は新型コロナにより芦屋さくらまつりが中止となった為、開催が出来なかった。

2) 防災教室の開催

2月27日（土）に日本語教室で避難・消防訓練を実施した。学習者に加えてボランティア講師、保護者、事務局員など9名が参加した。

日本語教室で勉強しているところに火災発生放送が入り、1階へ避難。そして消防署への通報訓練。その後、駐車場で水消火器を使った消火の練習。最後に、津波避難ビルになっている高層住宅前の標識まで全員で歩き、津波が来た際には近くの高い建物へ避難することを確認し、災害時の行動について関心を持ってもらうことができた。

3) 潮芦屋文学セミナー

5月に予定していたが、コロナ感染拡大の影響で延期となり、10月24日（土）に田村克己先生（国立民族博物館元副館長）による「ミャンマーの『今』を考える」を開催し、56名が参加した。

ミャンマーの生活文化スタイルから歴史、宗教、政治など幅広い内容について、わかりやすくお話しいただきミャンマーをより身近に感じる事ができた。

4) 潮芦屋コンサート

3月28日（日）にハープとピアノによる「癒しのひとときをあなたに」を開催し、雨天の中63名が参加した。演奏者はハープが石井理子さん、ピアノが角村久美子さん。ハープソロ、ピアノソロも交えながら10曲以上を演奏していただき、「コロナによって緊張の多い暮らしが続く中で、心からほっとするひと時に感謝する」と好評を博した。

5) ワールドフェスタ

令和2年度は新型コロナ感染拡大防止により中止となった。

6) 講演会の開催

1月30日（土）に予定していた「多文化共生のまちづくり～コミュニティー防災の視点で考える～」吉富 志津代氏（名古屋外国語大学教授・NPO 法人多言語センターFACIL 理事長）の講演会は緊急事態宣言下により中止となった。

7) その他のイベント

① 施設見学

11月28日（土）に「人と防災未来センター」を予定していたが、コロナ蔓延防止により

中止とした。

② 春の文化祭

コロナ蔓延防止により中止とした。

③ ひょうご国際交流団体連絡協議会意見交換会

幹事として2年任期の2年目にあたる令和2年度はコロナ感染拡大防止の観点から、講演は行わず書面による意見交換会のみを開催した。各団体からはコロナ対応で苦慮している実情や他団体の対応を参考にしたい、など多くの議題が出され活発な意見交換が行われた。

④ 阪神間国際交流協会懇談会

こちらも令和2年度は幹事にあたり、コロナ感染拡大防止で書面による懇談会とした。コロナ対応についての議題がほとんどであったが、災害時の外国人支援や外国人相談窓口の開設について等の議題も出され、各団体から丁寧な回答を得ることが出来た。

⑤ やさしい日本語の普及活動

12月15日（火）リードあしやにて、防犯協会役員に向けて外国人支援委員が「やさしい日本語とは？」と題して普及活動を行った。参加者からは、とても役に立つ内容であった等のコメントが寄せられ、今度継続して行うこととなった。これを足掛かりに他団体への普及も検討したい。

8、広報活動

【ACA かわらばん】

年4回発行のACAの活動紹介の情報季刊誌であるが、令和2年度はコロナの影響で多くのイベントが中止となった為、3回（春、夏、新春）に減らして発行をした。収支改善のため、広告掲載料の協力を得ながら、紙面を見やすく、楽しめるようにカラー化を継続した。メンバーは各委員会から選任してもらい、「かわらばん委員会」を結成し、委員会を主体としてレイアウト作成、原稿依頼、英訳手配、印刷発注校正等を行っている。

【コスモネット THE COSMONET】

1997年から「広報あしや」を英訳し、誌面印刷、登録外国人への発送等の一連の活動を行っている。これらの作業を担うのはボランティア担当者5～6名（ネイティブの校正含む）で、緊急事態宣言中も中断することなく毎月約130部を発行、内60部を発送した。

【コスモジャーナル】

令和1年度より隔月に発行する外国人向け情報として「広報あしや」をやさしい日本語と英語に訳し、市内7か所に配架している。

【やさしい日本語での防災関連記事のHP掲載】

「広報あしや」に掲載された防災関連の記事を「やさしい日本語」に翻訳し、ACA及びセンターのHPに掲載し外国人向けの防災周知を図った。今後も継続していく予定である。

9、他団体の各種イベントでの共催について

令和2年度の共催事業はなかった。

10、各種イベントでの他団体への後援・協力について

- ・ 芦屋市主催「ヘルスアップ事業」(10/2～12/19) 協力
- ・ 国連支援交流協会 UPS 主催「Mr. ダグラスワキウリ陸上教室イベント」(11/22) (コロナにより中止) 協力
- ・ 芦屋市主催「乳ガン健診実施」(1/23) 協力
- ・ 芦屋市主催「オープンガーデン 2020」(5/13～5/17) 協力
- ・ 芦屋市主催「日々の生活と人権を考える集い 2020」(12/5) 後援

11、総会、理事会、常任理事会、各種委員会の開催

- ・ 定例総会 (5/23) 1 回
- ・ 理事会 (5/23、3/27) 2 回
- ・ 常任理事会 8 回
- ・ 専門委員会の開催
 - 外国人支援委員会 9 回
 - 国内事業委員会 8 回
 - 国際事業委員会 7 回

12、会員数 (3/31 時点)

正会員	25 名
賛助会員	193 名
団体会員	2 団体

13、物的サービスを受けたもののうち主なもの

- ・ 今年度はありません。

以上